法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

〈論文〉若者言葉「うける」の新用法と主体 化

尾谷,昌則

(出版者 / Publisher)
法政大学国文学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)
日本文学誌要

(巻 / Volume)
102

(開始ページ / Start Page)
4

(終了ページ / End Page)
20

(発行年 / Year)
2020-12-10

(URL)
https://doi.org/10.15002/00025429

会談文

若者言葉「うける」の新用法と主体化

尾谷 昌則

1. はじめに

どんな共通点が考えられるだろうか。 次の発話には、ある共通点を持つ言葉が含まれている。

- (1) 大将、おあいそね!
- (2) ハンバーガー1つ、お持ち帰りで。
- (3) 昨日、駅前で100円だけ募金してきた。
- (4) MHF のOβをプレイ中。結構面白くなってきたかも。 少し課金しそうな俺ガイル(Twitter、@fez_kanisawa

葉は、勘定書きを示す際に店の方から「お愛想がなくて申のむ際に、客がよく発話するものである。しかし、この言「おあいそ」というのは、寿司屋などで最後に勘定をた

し訳ありませんが」などと申し添えていたことに由来するし訳ありませんが」などと申し添えていたことも「課金が、2008年、戸4り。「お持ち帰り」というのは、客表現であるため美化語の「お」が付されているのだが、なってしまった。「募金」は「金を募る」と書くが、いつのまにか客の側も「お」をつけたまま使用するようになってしまった。「募金」は「金を募る」と書くが、いつのまにか金を支払う側も自らの行為を「募金する」と問う際の接本来であれば店が客に対して「店内でお召し上がりになりなってしまった。「募金」は「金を募る」と出う際の接本来であれば店が客に対して「店内でお召し上がりになりなってしまった。「募金」は「金を募る」というの接続で、2007年頃からは、客が料金を支払うことも「課金が、2007年頃からは、客が料金を支払うことも「課金が、2007年頃からは、客が料金を支払うことも「課金が、2007年頃からは、客が料金を支払うことも「課金が、2007年頃からは、客が料金を支払うことに由来するものでありませんが」などと申し添えていたことに由来するといいた。

者が、 ものとされているが、現在では一般にも浸透している。 本国語大辞典』第2版)。これらは、芝居などの芸能関係 を受ける」のように、 加わった。「うける」という動詞は、例えば ず見られるわけであるが、近年、この仲間に が、その言葉を使用するようになるという現 るが、(5)のような自動詞用法も近世に生まれ このように、 近年では(6)のように拡張した用法が見られる。 いわゆる楽屋言葉(中田1978)として使い始め その言葉の使用者とは反対側 目的語をとる他動詞用法が基本であ の立 象が少なから 「先生が れている 「うける」 湯の 日日 人間 質 が 問 た L

b. 最後のオチで、観客がウケた。 (5) a. 最後のオチが、観客にウケた。

b. 春樹が茶髪とか、マジウケるわ。(6) a. 何それ。超ウケる~。

れるようになったものである。しかし、近年見られる(6)葉として演者の側が使用しはじめ、それが一般にも使用さりはある対象を「(客が)気に入る」の意であり、楽屋言(5)aは「(客から)好評を得る、気に入られる」の意、(5)

は 態を表す自 稿では、 から見れば観客にあたる者が使用していることになる。 れるようになったものである。しかし、近年見られる(6 訶用法を旧用法、 「自分が笑える) 便宜上、(5)のように自分以外を主語にとる自 動詞用法を新用法と呼んで区別する。 (6)のように自分の感情もしくは内的 /面白いと思う」の意であり、 演者の 本 側 状 動

新用法は、

全世代に浸透しているとは言

W

難

0

例

が無難」(p.20)とも指摘されている。 を与えてしまうので、しっかりとした言葉に言い換えた方使われることが多い若者ことば。軽薄でおちゃらけた印象また、『イラストでよくわかる 敬語の使い方』(彩図社、また、『イラストでよくわかる 敬語の使い方』(彩図社、は、小柴(2014)は、「観客側(相手)が「うける」とえば小柴(2014)は、「観客側(相手)が「うける」と

にして、冷静に次のように分析している。 一方で、金田一(2012)は、言葉遣いの善し悪しは別

(7)「あのギャグはウケなかった」「今日はウケなかった」(7)「あのギャグはウケなかった」「今かる」は、視聴する側が批判的な視点も同時に表現することになり、自分のことが自分のことでないような言い方に聞こえ、私というものを自分としてような通常はバラエティーやコメディーの作り手や、ような通常はバラエティーやコメディーの作り手や、ような通常はバラエティーやコメディーの作り手や、

この後半部分は、 のであり、 1987, 1990, 1991, 的状態)を客観的に捉えているかのような表現になってい 論することが本稿の最終目的であるが、 論されている主観性(subjectivity)の問題にも直結 るという指摘であるが、これは認知言語学(Langacker ている。 非常に興味深い指摘である。 自分がて 1999′ 中 面白いと思ったこと(=自 村 ·上原201 金田 - 2012 . 215 この点につ その前に、 6)で頻 (繁に議 新用法 (V するも 分の内 、て議

と旧用法の意味の違いについても考えたい。

本稿の構成は以下の通りである。第2節では、新用法に 本稿の構成は以下の通りである。第2節では、新用法の 意味が特殊化したものであることを論じる。第3節では、 に(subjectification)を紹介し、これが新用法にも見られることを論じる。第4節では、小説やネット掲示板から収集した初期の使用例に基づいて、「うける」の主体化について とを論じる。第4節では、小説やネット掲示板から収集した初期の使用例に基づいて、「うける」の主体化について とも明らかにする。

2. 新用法の意味の特殊化

されている。
でれている。
なれている。
なれている。
なれている。
ない。新用法に触れている文献で最も古いも究は見あたらない。新用法に触れている文献で最も古いも変は見あたらない。
ないるが明法の発生に関する本格的な研管見の限りでは、この新用法の発生に関する本格的な研

(8) もろうける【高校生】 すごく面白いこと。

スことばを説明する際の会話例(三か所)に登場しているの「うける」が立項されているわけではなく、他のキャンパンパスことば辞典』(吉備人出版、2002年)であるが、次に古いものは、大学生の言葉遣いを集めた『現代キャ次に古いものは、大学生の言葉遣いを集めた『現代キャー)では、「著者遊びコトバ事典』 p.18)

みである。うち二例を引用する。

、 ートーかー。 ウェるなー、 あぃーくり) a.「女がシャネルで、男がジーパンにへろへろのト

(『現代キャンパスことば辞典』 p.71]レーナーかー。ウケるなー、あれ」

b.「しかもロゴが魚!かなりウケるー

できるが、意味の記述がない。ている。それゆえ、これらは明らかに新用法であると判断ら、その事態に対して自分の「うける」という感情を語っら、その事態に対して自分の「うける」という感情を語ってれらの会話例では、話者がある事態について触れてか

手元にある辞書で確認すると、『日本国語大辞典』(第2版、201年)をはじめ、『広辞苑』(第7版、2014年)、『明鏡国語辞典』(第2版、2010年)、『岩波国語辞典』(第8版、2019年)などの最新版には旧用法しか記載されておらさ、そのうち、『大辞林』(第4版、2019年)では、「そた。そのうち、『大辞林』(第4版、2019年)では、「その話、超うけるんだけど」という新用法の例文が掲載されているかった。

に新用法への言及がある。 国語辞典』(第7版、2014年)で、自動詞用法の2番目残る二冊のうち、一冊は、新語に強いとされる『三省堂

んなどに反応して〕受ける!〔=おもしろい!〕」(10)②おもしろがられる。「ギャグが受ける」「〔じょうだ

が、

この場合の「うけた」

が具体的に視聴者のどのような

えない 項目になっているため、 法と呼ぶものである。このように、旧用法と新用法が 表現するように述べているものであり、まさに本稿が新 自分がその場で抱いた感情について、まるで感情形容詞 ており、 が第三者に好意的に受け入れられたことを客観的に描 ける!」は、用法上、大きな違いがある。前者は、 ただし、ここに挙げられた例文の「ギャグが受ける」 本稿が旧 用法と呼ぶものである。一方で、後者は 新用法に関する説明が十分とは言 と「受 ギヤ 写 同 用 じ で

とで話題となった『三省堂現代新国語辞典』(第6版 旧用法の①や②とは区別して新用法の③が記述され 19年)である。 最後は、 若者言葉やネット 同書には語釈しか記載されてい 用語を積 極的に取り入れ ないもの てい 20 る Ó

(11) 〈自動下一〉 ①人気・好評を得る。「大衆に― ②おもしろがられる。「ギャグが―.

③おもしろくて笑える。[若い世代の言

ドラマ「半沢直樹」 がられる」というだけであり、 せない。 いたのかまでは限定していない。例えば、 ;ら一歩踏み込んで、「笑える」と記述している点も見逃 旧用法は、単に「人気・好評をえる」「おもしろ 新用法について、旧用法の「おもしろがられ は視聴者にうけたといってよいだろう 方 具体的にどんな行動に結び 有名なテレビ

> る。 統合されて「うける」という一語に表現されているのであ たりと、 会社の再建に向けて社員が一丸となって努力するシーンに れた黒崎が最後に登場する胸アツ展開に心を躍らせたり、 だ!」と怒鳴るシーンにハラハラしたり、 感情に結びついているのかまでは限定できない。「 涙したり、最後に政治家の悪事が露見して胸がスカッとし 様々な感情による 〈好評〉 があり得る。 国税庁に飛ばさ それらが 倍

もかなり限定された意味になっている。そのことは、 笑える」という場合に用いられるものであり、 ような発話が「(滑稽で) 笑える」という解釈以外では不 目然になってしまうことからも分かる。 しかし、新用法の「うける」は、 基本的に 旧用 「(滑稽 法より 次の

〔12〕涙のラストシーン、超うける~。

ける〉という意味を表している 哲学で笑うということにはならない。 える」ということに直結するが、学生が「哲学がおもしろ 岩ではない。「ギャグがおもしろい」と言えば、それは との語釈もあるが、「おもしろい」というのも決して一枚 い」と言っても、それは哲学が興味深いというだけであり 似たような記述として、(11)の②には「おもしろがられる」 〈笑える〉も含めて広く〈他者の つまり「おもしろい 興味・ 関心を惹きつ

る

〈笑える〉という感情に限定している点で、 となれば、 ③の「おもしろくて笑える」 とい 歩踏み込ん ・う説明 は

とで、意味が特殊化して「肉」だけを指す語になった。日 摘されている(Paul 1880, Waldron 1967, Lyons 1977, McMahon と呼ばれ、古くから意味変化の代表的なパターンとして指 れ、指示対象が狭くなる現象は意味の特殊化(specialization) だ記述といえよう。このように、もともとの意味が限定さ ていたが、同じ意味の food がフランス語から流入したこ 1994)。例えば、英語の meat はもともと「食物」を表し

す「(笑)」や、「げらげら」のようなオノマトペと一緒に ションは顔が見えないためか、自分が笑っていることを示 トの書き込みを見ても伺える。ネット上のコミュニケー 経験に特殊化したことについては、(12)だけでなく、 「うける」の意味が〈笑える〉という感情もしくは心的 ネ ッ

したものと考えられる。 重が相対的に大きいためか、 仕事をしている社会人とは異なり、生活における恋愛の比 る者」という意味へと特殊化してしまった。中高生などは、

より限定された意味へと変化

現実世界の生活が充実している者のことを(半ば自分たち 実(リアル)の世界での生活が充実していないネット民が、

への自虐の意味を込めて)そう呼び始めたのだが、これが 般の若者にも伝わると、「恋人がい(て生活が充実してい)

は婚姻関係を結んだ女性の方のみを指す語へと特殊化して 呼ぶ言葉、つまり男女どちらも指していたのだが、

現代で

いる。若者を中心に定着している「リア充」も、元々は現

本語でも、「つま」はもともと夫婦や恋人が互いに相手を

ト上の掲示板としては草分け的な存在である「2ちゃんね 使用している例がよく見られる。つぎの例は、インターネッ る」の中でも、 初期の書き込みのものである。

a. >34 大爆笑。ウケた。

 $\widehat{13}$

過去ログ 936473445、

b >1 むっちゃウケた(爆笑)

過去ログ 943698582、

1999/11/28

c. >9 げらげら。ウケた。

過去ログ 950722105、2000/02/17

いだろう。いだろう。 0 0 5 , を排除するわけではないが、少なくとも、新用法の意味が 般人も耳にする機会が多く、その影響力も大きい(陣内2 だろう。お笑い芸人はテレビ番組に頻繁に登場するため ば、それは「客が笑う」という具体的な行動に限定される 定されない。しかし、お笑い芸人が「客にうける」と言え も指摘したように、実際に「どのようにうける」のかは限 の製作スタッフが「視聴者にうける」と発話しても、 係ではないと思われる。例えば、テレビドラマ「半沢直樹 ことばがマスメディアを通じて一般に定着したことと無関 、笑える〉に特殊化されて一般に定着した原因の一つに、 意味の特殊化が起こった原因については、 松本2010)。それ以外の影響があった可能性 お笑い芸人の

これは、

例えば自分とバネッサの2人が写っている写

a

は、

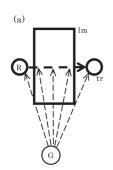
3 新用法と主体化

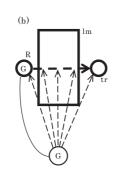
例えば、 されてゆく現象を主体化(subjectification)と呼んでいる。 的な捉え(subjective construal)が言語表現に色濃く反映 てほしい Langacker(1987, 1990, 1991, Langacker (1990: 17, 20)が挙げたつぎの例文を見 (日本語訳は筆者による)。 1999) は、 認知主体の主体

- a Vanessa is sitting across the table from Veronica. (バネッサがテーブルをはさんでベロニカの向 い側に座っている。)
- b (バネッサがテーブルをはさんで私の向かい Vanessa is sitting across the table from me 座っている。) 側
- てバ も使用できる。 している。一方、(14) bは、 ており、この3つの例文の中では最も客体的な捉えを反映 参照点にして、 何かを横切って移動することを表す英語の前置詞 、ネッサを同定する参照点が話者自身になった例である 実際には移動が存在していない(4)aのような場合に c Vanessa is sitting across the table ネッサがテーブルの向かい側に座ってい この文は、ベロニカ(とテーブル)の位置を バネッサの位置を認知していることを表し from meという前置詞句によっ across る。)

映されている認知構造を図示したものである。(6) 呼んでいる。次の図1(a)~(c)は、(4)の3つの文に反 c は、 反映した表現へと変化することを、Langacker は主体化と り客体的な捉えを反映した表現から、より主体的な捉えを うのは、非常に主体性が高いといえる。 はずの状況(Langacker1990 は「オンステージ」と呼んで を認知している。このように、認知主体が認知対象である の自分を参照点にして(=自分の視点から)バネッサの位 体的に捉えているため、(4)aと大差は と言えるが、認知主体としての自分が写真の中の自 真を見ながら説明しているような状況である。 いる)の中に身を置き、その視点から事態を把握するとい 分自身になっている点でやや主体的な捉えを反映している 図(a)は、 認知主体である自分自身が事態の中に身を置き、そ 認知主体であるグラウンド(G)が、 ない。 以上のように、よ しかし(14) 参照点が あ る人 |分を客 物

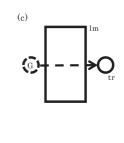
across が元々持っていた〈移動〉 知していることを表している。 向かいに座っている人物からバネッサ(tr)に伸びる矢印は サの位置を把握するための参照点(R)、つまりバネッサ ンドマーク(m)となる机は長方形で描かれている。 右側の円で描かれている。バネッサを位置づけるためのラ 立って認知されるトラジェクター(tr) はバネッサであ を参照点(R)として利用することで、バネッサの位置を認 では物理的な移動の意は失われているため、 認知する事態の を意味するのだが、 実線ではな 中で最も際 バネ 14





表されている。 なっていることが

図(c)は事態



時間軸 tr : トラジェクター lm: ランドマーク G: グラウンド 参照点 Ö 事態の参与者 参与者の一致 対象の認知

く破線で示され

を表している。

これを演劇に喩えるなら、

る。

図

は

こっている事態を観客席から冷静に認知し

てい

た状態から

その事態に埋 へと移行

め込まれた視

点

したのだと言えよう。

図 1 主体化 (a)(c) は Langacker (1990:18)、(b) は上原 (2016:68)

照点になっている 認知する主体と参 あるため、 た認知主

事態を

体自身で

自分とが線で結

ば

れ、

同

人物

主体) 身を参照点にし 中に入り込み、 ヘネッ が か ていること の位置 態

ラウンド

Ш 認 ・たグ

知

指摘し

ている。 太郎は

16

a

酒が欲しいようだ。

(例文(4) a と平行

に認知してい を外側から客体的

照点が写真に写 同じであるが、 本的には図(a)と を表している。 (4) bの認知構造 現象を主体化と呼んでいる。点になり、より主体的な捉えを言語が反映するようになる。 自分もステージ上に Langackerせ、 から事態を認知し Uehara(1998, 2006)は、Langacker の考えを踏襲しつつ このようにグラウンド自らが事態内の参照 ている状態 のぼ ŋ

図示している。そして、このような主体性 に埋め込まれた自己)の観点を取り入れて、 そこに Gibson (1950, 1979) のエコロジカル のような日本語の内的状態述語表現とそれに対応する英語 表現にも見られるとしている。 の違いは、(15 セル 図2のように フ (環境

15 a I love you

b あなたが好きです。

図2(a)に対応

図2(b)に対応

の文に反映される主体性の違いが、 一欲しい」がとる3種の構文にも平行して見られることを さらに、上原(2005:540)では、(4)にある3つ 日本語の内的状態述語

b 私は 酒が欲 が欲 W 11 0

ここでのa文は、

認知主体の客体的

いる。

b 文は、

把握している対象が認知主体自身であると

例文(14)bと平行

な事態把握を反映して 例文(4) cと平行

ステージ上で

起

に引用した金田一(2012)が指摘しているように、

新用法については逆の見方も可能である。

 $\overline{7}$

と図3(b)のようになる。

ただし、

状態につい うける!」

て述べたものであ

る。

ゆえに、

これを図

示

す

などは、

事態の中にいる認知主体が自

己の 法

内

的 超

0

方で、認知主体自身が笑ったことを表す新用

図 3

a

)で示した演者の客体化と同じように、

自

0

内

的

捉えていると考えるわけである。

のを自

分として捉えず、

もう一

人の

私であるか

0 私と

状

.態を客体的に認知しているのではないかということにな

しておらず、 ていることを表している。 分を認知対象として表現しており、 は」という主 なされていることを表 いう点でa文よりやや主 一題を用 自身の内的 いることで、 Ĺ てい 状態につ 体的な把握になってい しかして文は自 る。 認知主体であるはず 11 ある程度客体 てより 主体的 分自身を客体 る な捉 的 ええ 捉 Ó 化

が、 客体化(objectification)と言っ ものと考えられる。 図 3 a ている演者自身が、 にあてはめ さて、 その場合は、 以上の議論を のように表すことができる。 かが客体的に認知したことを述べるものであ てみよう。 観客が笑う様子を客体的に認知してい その意味では、 笑う観客を見てそう言うこともできる 旧 「うける」 用法 は、 てよいだろう。 の旧 観客が笑うなどして 主体化ではなくむしろ 勿論、 用法と新用 ステージに立 法 0 違 13 る

この考えに従うなら、 (a)

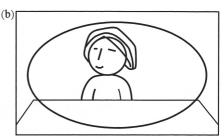
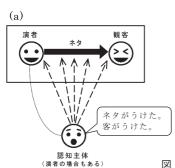


図 2 それぞれの表現の表す見え(Uehara (1998, 2006) より)



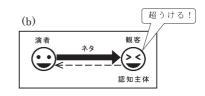


図3「うける」の主体化

化のいずれなのかについて考えてみたい。例をもとに、新用法発生の背後にあるものが主体化/客体る。そこで次節では、書籍やネット掲示板から収集した用

4. 用例の調査から見えたもの

4.1.書籍から採取した用例と主体化

「うける」の主体化がどのように起こったのかを分析す「うける」の主体化がどのように起こったのかを分析する必要がある。しかし、2000年以前の口語データをする必要がある。しかし、2000年以前の口語データを表表が、2000年以前の位置を言葉均衡コーパス(BCCWJ)、文を表表でした。とのが、日本語歴史コーパス(CHJ)、現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)、文を表表で、筆者が独自にスキャンした小説や対談本(計1の主)のの主体化がどのように起こったのかを分析するこで、筆者が独自にスキャンした小説や対談本(計1の主)の主義を対している。

(17)ママ「ううん、笑ってなんかいないわよ」のうち最も古い用例は、意外なことに1969年であった。調査した。その結果、新用法の用例が3つ見つかった。そ145冊、1955年~2001年に出版されたもの)で

私 「笑ってるじゃないか」

のよ。坊や、感動してるのよ」ママ「ちがうの。なんていったらいいかな。ウケた

p.67、初出は『週刊大衆』1969年(『麻雀放浪記(一)青春篇』角川文庫、1979年

に相当すると解釈すべきであろう。 に相当すると解釈すべきであろう。

いて語ったものである。「あとがき」で、作者が読者からもらったプレゼントにつ「あとがき」で、作者が読者からもらったプレゼントにつ2つ目の例は、1993年のものである。これは小説の

方もいました。「最近、艶やかな赤い唇、がでなくて(8) あと、高坂にテスティモの三色セットをくださった

(『炎の蜃気楼10 わだつみの楊貴妃(前編)』集英社、淋しいので」だそうです。ウケました。

い。その場合は、「(あなたのコメントは)(私に)ウケまないため、旧用法として解釈しようと思えば出来なくもなて間違いない。ただし、「ウケました。」としか書かれていこの用例は、「(私は)笑いました」という意の新用法と見この用例は、「(私は)笑いました」という意の新用法と見

をえない。

その意味では、

ル

形を使用している(19)は、

けて徐々に進むものだからである。 然変異でいきなり新種が出現するものではなく、 出現するとされている。およそ言語変化というものは、 解釈も可能な例というものは、 当すると解釈すべきであろう。 性の度合いを判断するなら、 れる構文ではない。いずれの場合にせよ、この 捉えるような事態認知であり、 ある可能性は高い。 ということになるが、 先の例と同じく図1 これは自分自身を客体 言語 このように、 日本語として自然に選 この例も、 変化の過渡期に頻 新旧 その一つで 表 時間 いずれ (b)に 現の をか 繁に 的 主 択 突 相 体 0 z

19) 「ホント、 さて、 後の例であるが、 こちらは1994年のもので

あれでマジで警部補だったらウケるなー」 (『いきなりミーハー密輸船』 1994年、 集英社、 p. 45

て、

来の自分を想像するしかないため、 易になる。しかし、 時の自分と現在の自分を分化させ、客体的に捉える事が るから、 起こった笑いであ こちらはル形で使用されている点が面白 ている(19)のような例 容易ではなく、 たとえ笑った主体が自分自身であっても、 れば、 未来に自分が笑うであろうことを想像 むしろ両者が融合した視点を取らざる では、 既に事態が成立しているわけであ 現在の自分を基準にし 両者を完全に切り 0,1 過去に実際に その当 離す して未 容

> 査し、 ているが、これは本論の議論とも矛盾しな ル形は語り手の であると考えられる。 形を使用している(17)や タ形が語り手の外的視点構成を表しているのに対し、 内的視点構成を反映していることを指摘 山本(2016)は小説 (18)よりも、 主体化が進んだ事 0 地の文を調

ある。 こで、これを検証すべく、より多くの用例採取が期 うことであり、この点は 的な捉えを反映したル形の「うける」が発生してきたとい 法の拡張がストップしたわけではなく、その後、 の指摘に反論するものになる。否、 仮説である。この仮説は、(7)で紹介した金田一(2012) 表現が発生した(つまり主体化した)のではないかとい より主体的に事態を認知したことを表す(19)のようなル形 に事態を認知したことを表すものとして生まれ、その後、 それは、 カケは、客観的な捉えをやや残したタ形の「うけた」であ るネット掲示板を調査して、 いた仮説であるため、 以上の3つの その点では(7)の指摘と合致する。 勿論、 新用法が(17)や 書籍から収集できたわずか3例の変化 用 元例から、 、 極 めて脆弱と言わざるをえな (7)では触れられていないもので (18)のようにタ形を用いて客体 面白い仮説を導くことが 用法の変遷を追った。 新用法が生まれたキ しかし、 そこで用 より主体 できる。

2 タ形からル形

4.

調 査に使用したのは、 イ ンターネット上 の掲示板サイト

を割合でグラフ化したも 新旧それぞれ KWIC Finder を用いて一受ける/うける/ウケる 9年に立てられたスレッドと、 去ログにあるスレッド を開始し としては草分け的な存在で、 いう特性もあるだろうが、 きたスレッド数、 みを出来るだけ多く収 る2004年と2009年に立てられたスレッドの書き込 いるのがよく分かる。 ル」という4 その11 てい 年間に の用 る 種の表記およびその夕形で検索した。 レッド(=掲示板)のうち、 「2ちゃんねる」である。 テキストファイル化した際のデー おける新用法と旧用法の使用 法のヒット件数は表1の 集、 Ō が図 新 テキストデータ化した上で、 用法の使用割合が 1999年5月からサ その5年後と10年後に 4である。 最も古 ネ 通りである。 当該サイ ット 年 頻度の推 - 々増 掲示板と 収 /ウケ 1 ŀ 1 · タ量 えて 9 ビ 0 ス

いは捨象して全体的に見ると、 さらに詳しく見ていこう。 ル形と夕形という大きな対立で見て まずは前節で提示 それを当該年 テンス スレッドで得ら 4 年の 得られ 制)と 度の 両者 ル 形 た用 使 の 0) 使

別にその内訳を示したものが表2である。

例はそれぞれ た新用法について、

26件と20

4件であり、

このうち、

1999年と20

04年の

る

このことは、

主

体化が進

前

加してい

0

たということであ

ル 状態)に

形

0

用法が徐

Þ る 的

つい

7

てい

内

割合としてグラフ化したもの

が図5である。

かな表記の違

用数を合算したものが表3であり、

表2に

お

ける1

999年と200

仮説を検証

するため、 はい

表記

の違

13

ったん無視して、

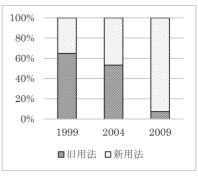
	1999年	2004年	2009年
スレッド数	2225	7791	3996
データ量	27MB	474MB	289MB
旧用法数	48	232	60
新用法数	26	204	759

収集したデータ 表 1

裏付けるものである。

で提示した仮説が正しいことを したことを意味しており

ると、 る新用法は、 が必要になる。 能性が高い。 ただし、 内的 のような夕形で生ま 笑う主体 状態につい 図3には若干の 旧 これらは、 最初は 用法 が自分自身であ 用例の変遷を見 よりも主 $\stackrel{10}{13}$ て述 ゃ 自 n てい 修



新・旧用法の使用割合

として発生し、 客体的に捉える用 去に起こった事態

その

自分が現在抱 る感情

まり、

 $\stackrel{10}{17}$

ることが 用割合が

分 増

か 加

る L

や 18

のように、 新用法は

14

て

	ル形			タ形					
	受ける	うける	ウケる	ウケル	受けた	うけた	ウケた	ウケタ	計
1999年	1	1	1	0	3	10	9	1	26
2004年	0	3	44	38	0	3	83	33	204

表 2 新用法の内訳

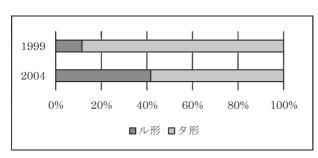


図5 ル形とタ形の使用割合

	1999 年	2004 年
ル形	3	85
タ形	23	119

表3 新用法のテンス

う主体が

主体化が進行したことになるが、ル形による新用法は、

笶

〈いま・ここ〉を共有する事態内にいて、そこか

笑う主体が認知主体になったという点で、若干の

客体的な捉え方をしているとも考えらる。

タ形を使用して過去の事態として認知し

り主体化が進んだ用法であると考えられる。そこで、図ら自身の内的状態について語っているものであるため、

分けることにする。

この修正を加えたことで、

結果的に、

上原(2005:

b

)で提示していた新用法を、

図6の(b)と(c)の2つに

図 3 3 よ ではあるのだが、

ている点では、

つまり、

う。 態を表す述語(もしくは慣用句)には、他にも「むかつく! 用法を獲得したと言うこともできるだろう。 2006)や上原(2001、2005)のいう内的状態述語 う点では同じものと考えられる。 のが出来上がった。 540)が(16)において指摘した主体性の3段階と同じも 腹立つ!」などがあるが、 さて、 表記別に新用法の使用割合をまとめたものが図7であ 最後に、 表記で細分化し、 逆に言えば、「うける」は Uehara (1998 これらも主体化した用法とい さらに詳しく見てみよ ル形で内的状

な表記 用割合は増加しているが、 カタカナ表記の「ウケる」(図中では斜線の帯) と「ウケル」 まずはル 0 「うける」 形 の内訳を見る。 は減少しており、 漢字表記の「受ける」とひら 図5で見たように、 実際に増加したのは ル 形の が 使

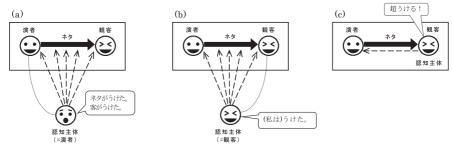


図6 「うける」の主体化(修正版)

ている。

40%を占めるまでになっ

を合わせると、

全体

めるまで躍進しており、用法全体の20%近くを占

ウケる」と「ウケル

の 9 あ

が

2004年には新

9年には0件であ

0

図中では黒い帯)の

み

る。

特に後者は、

1

9

てい ると、 が、 年には2%未満にまで激 だけである。 も見たように、 用法全体の約50%を占 いて見てみよう。 受けた」と「うけ は 割合は減っている 力 つぎは夕形の たのだが、 ナ 非カタカナ表記 実際に減少して 1 表記 る。 999年では新 両者を併 しかし、 一ウケた 20 夕 内 形 訳 図 0 0 0 5 K 11 た る だ 使 4 せ 0 で 0

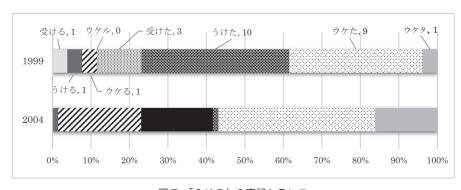


図7 「うける」の表記とテンス

には 漢字 とは、 のことが 化が著し 神および行為〉 は、 いうことである。 記化が進んでいると 新用法はカタカ まれ 以上から分かるこ も含まれて こてお 法 旧用法の 0 葉において常 堀尾(2006 新用法の 人間活動 「うける」 たわけであ カ か 9 b (V ŋ 確認できた。 タカナ表記 いことを指 新用 ても同 その う う を表 ナ 11 る 表 中 精 則

てが は微 ウケタ」に至 増 カ 夕 L 力 そ ナ表 お ŋ つ 記 7 0 全

いる。

は約4倍に増加し

記に偏っていたとは言い切れない。の5割未満であったわけであるから、最初からカタカナ表も1999年の段階では、カタカナ表記の総使用数は全体から、同じ表記になるのは当然かもしれないが、少なくと

5. おわりに

の上でも変化が起こったことが確認できた。 用法の「うける」は、 に着目し、その使用割合の変化が観察できたことから、 主体化した)ことを論じた。また、ネット掲示板での表記 な捉えを反映したル形の「うける」が発生した(つまり、 り客体的な捉えを表すタ形の「うけた」から、 ら新用法の初期の用例を収集し、その特徴に基づいて、よ ル形での使用)には、Langackerのいう主体化が関与して 第3節では、新用法の発生(特に「超うける!」のような という限定された意味へと特殊化したことについて論じた。 議論し、〈好評を得る〉 という漠然としたものから〈笑える〉 書籍や、辞書の記述を手がかりに、 いることを指摘した。第4節では、書籍やネット掲示板 節では、この新用法を若者言葉の一種として紹介している 本稿では、ウケルの新用法について議論してきた。第2 意味が特殊化しただけでなく、 新用法の意味について より主体的 か

参考文献

Gibson, J. J. 1950. The Perception of the Visual World. Boston: Houghton Mifflin.

Gibson, J. J. 1979. The Ecological Approach to Visual Perception. Boston: Houghton Mifflin. (古崎敬ほか共訳『生態学的視覚論』1

池上嘉彦2000.『「日本語論」への招待』東京:講談社:

Iwasaki, Shoichi 1993. Subjectivity in Grammar and Discourse: Theoretical Considerations and a Case of Japanese Spoken Discourse. Philadelphia, PA: John Benjamins.

シの宁方 321-330. 東京・和泉書院・陣内正敬・友定賢治(編)『関西方言の広がりとコミュニケーショ陣内正敬 2005. 「関西方言の広がりと日本語のポストモダン」

ンの行方』321−330.東京:和泉書院・・・・・

久野 暲 1978. 『談話の文法』東京:大修館書店:金田一秀穂 2012. 『オツな日本語』東京:日本文芸社

び入門』東京:インプレス. 日本語編

美しい言葉えら

Langacker, R. W. 1987. Foundations of Cognitive Grammar, Vol. 1:

Theoretical Prerequisites. Stanford: Stanford University Press.

Langacker, R. W. 1990. "Subjectification." Cognitive Linguistics 1.

5-38.

Langacker, R. W. 1991. Foundations of Cognitive Grammar, Vol. 2:

Descriptive Application. Stanford: Stanford University Press.

Lyons, J. 1977. Semantics. Vol. 1, Cambridge: Cambridge University Linguistic Research 14.) Berlin / New York: Mouton de Gruyter.

松本 修 松下大三郎 1928. 2 0 1 0. 『「お笑い」日本語革命』 『改撰標準日本文法』東京:中文館書店 東京:新潮社

McMahon, April M. S. 1994. Understanding Language Change. Cambridge: CUP

中田昌秀 1978. 一、笑解 現代楽屋ことば』 湯川書房

則松智子・堀尾香代子 2006. 「若者雑誌における常用漢字のカ タカナ表記化 紀要』72、19-32. 北九州市立大学文学部 ―意味分析の視点から―」『北九州市立大学文学部

Paul, H. 1880. Prinzipien der Sprachgeschichte, Tübingen: Niemeyer Swan Sonnenschein, Lowrey & Co.) (Strong, H. A. 1888. Principles of the History of Language. London

Uehara, S. 1998. "Subjective predicates in Japanese: A Cognitive boundaries, 271-291. Amsterdam: John Benjamins linguistics investigation across language, fields, and philosophical July 1988. (Published in June Luchjenbroers (ed.), Cognitive Linguistics Workshop at the Australian Linguistics Institute in Approach." Paper presented at the Research Issues for Cognitive

Uehara, Satoshi 2006. "Internal State Predicate in Japanese: Luchjenbroers, 271-291, John Benjamins, Amsterdam/ Cognitive Approach," Cognitive Linguistics Investigations across Language, Fields and Philosophical Boundaries, (ed.) June

Philadelphia

上原 本認知言語学会論文集』1、1-11: 聡 2001. 「言語の主観性に関する認知類型論的一考察」 『日 日本認知言語学会

上原 5 3 1 5 4 6 日本語の内的状態述語をめぐって」『日本認知言語学会論文集』 5、 聡 2005 「Subjective Construal と文法構造と言語類型と: 日本認知言語学会

上原 著)『ラネカーの と 「主観性」 — 聡 2016. 言語類型論の観点から— 「ラネカーの subjectivity 理論における「主体性」 (間) 主観性とその展開』 —] 中村芳久·上原聡 (編 53-89. 東京:研究社

Waldron, R. A. 1967. Sense and sense development. London: André Deutsch

山本雅子 2016. 「語りの語用論」『認知語用論』くろしお出版

注

- 1 ダウンロードしてプレイするゲームなどは、無料版でもそこ たり、様々な追加アイテムを入手するためには、料金を支払 そこ遊べるものもあるが、さらに進んだステージでプレイし う(課金に応じる)必要がある。
- 2 2017年10月1日からは「5ちゃんねる」という名称に変 更されている。書き込みの冒頭に「スダ」とあるのは、 表している。 の書き込みをした人に向けたリプライ(返信)であることを 34番目
- 1996年の『若者遊びコトバ事典』に採録されているのが 最も古い記述なので、 新用法が広まったのは90年代前半と見

3

6

Langacker(1990:18)の図(a)いは、

認知主体などを統合した

9

られる。そこに影響を及ぼしたお笑い芸人となると、80年代以(とんねるず、ダウンタウン、ウッチャンナンチャンなど)であろう。例えば、とんねるずは(自ら作った言葉ではないが)「〜みたいな。」「ツーショット」「元サヤ」などを番組で使用し、一気に流行させた。ダウンタウンも、ギャグが面白くなかった時に言う「寒い」や「すべる」をはじめ、「ヘタレ」などの表現を浸透させており、その影響力は非常に大きい。あまり知られていないかもしれないが、ダウンタウンが MC を務める『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!』(日本テレビ、1989年~)や『ダウンタウン区』(読売テレビ、1993年~)などは、現在でも放送が続いており、かなりの長寿番組になっなどは、現在でも放送が続いており、かなりの長寿番組になっている。

7

「グラウンド」とは、

握する際の土台となる「いま・ここ」も含めた幅広い概念で

認知主体である人間だけでなく事態を把

8

- (4) 〈好評を博する/喜ばれる〉という抽象的な意味と比較すると、(4) 〈好評を博する/喜ばれる〉という抽象的な意味と比較すると、
- (5) 認知の対象となる客体が実際に移動していなくても、認知主体である発話者が、客体の位置を移動に基づいて主体的に捉体である発話者が、客体の位置を移動に基づいて主体的に捉な把握が背景化し、主体による「主体的な捉え(subjective construal)」が前面に出ることも Langacker(1990, 1991)は主体化と呼んでいる。

- ちらの図を採用した。016)は両者を点線で結んだ図を提示している。本稿でもそしかし、この文では両者が同じ対象を指しているため、上原(2グラウンド(G)と参照点(R)を結ぶ点線は描かれていない。
- snow country."となど訳され、まるで列車の動きを外から眺 出来事の内側から事態を把握するような表現方法は、 とも知られている(松下1928、 う動詞を持っており、 や「もらう」とは別に自己の視点を投影した「くれる」とい を説明する「太ったおばさんがいたの。」とその英語訳の"Ther 同様の例としては、 めているかのような表現がなされる(池上2000:291)。 が、英語では "The train came out of the long tunnel into the 験していることをそのまま表現しているような印象を与える あった。」という一文は、 「雪国」 の特性の一つとしてよく指摘されている。 発話者)を指すと考えても差し支えない。 あるが、本論文の議論に関しては、単純に認知主体(もしくは 1993:80)。また、授受を表す動詞の中でも、日本語は「あげる saw a big lady standing there." にも言える(Iwasaki の冒頭にある「国境の長いトンネルを抜けると雪国で 自分が部屋に入った直後に認知した状況 自己中心的な出来事の描き方をするこ 列車の中にいる主人公がその場で体 **久野1978**)。 例えば川端康成 \mathbb{H} 本 語
- 「テスティモ」とは、口紅の商品名である。

(11) ただし、これらのスレッドは、第一件目の書き込みが199担を減らすため、現在は1スレッドあたり最大1000件を超えるそのような制限が無かった初期には、10000件を超える書き込みがされたスレッドもあった。

10

ネット上に様々な掲示板を設置するようなサービスでは、一

な時間が必要となるため、今回は敢えてそのまま使用した。 9年、2004年、2009年にそれぞれ行われたというだけのことであり、スレッド内の書き込みが全て当該年のものとは限らない。実際には翌年(ごくまれに翌々年)の書き込みデータから、特定の年の書き込みだけを抽出・分割するには膨大タから、特定の年の書き込みだけを抽出・分割するには膨大タから、特定の年き込みだけを抽出・分割するには膨大タから、特定の年き込みが199ただし、これらのスレッドは、第一件目の書き込みが199ただし、これらのスレッドは、第一件目の書き込みが199ただし、

(おだに まさのり・本学教授)